

日経MJ 2019年 9月23日付

日韓関係「政冷」の波紋

日韓関係は最悪の状態である。こうした流れが両国の経済関係にどのような影響を及ぼすのか気になる。韓国からの訪日客は大幅に減り、韓国内での不買運動も続いている。政治は冷めても経済は熱いということ。政冷経熱と言っ。少し前の日中関係でよく使われた言葉だが、当面の日韓については政治の冷えた関係が経済を冷ます結果になっているようだ。ただ、国民のムードはうつろいやすい。少し時間がたてば、観光や不買運動の動きは薄れてくるかもしれない。興味深いことに日本から韓国への旅



伊藤元重の

エコノウオッチ

行者の数は増えているようだ。航空料金が大幅に割引され、ウォン安になったこともあるだろう。日韓の経済関係でより重要なのは、日韓で深化・拡大してきた企業間の取引である。日本の素材や部品を韓国の大手企業が大量に購入して製品にする。韓国の半導体は日本でも大きな売り上げを上げている。日韓で国境を越えた分業が深化・拡大してきたのだ。フッ化水素やレジストなどでの日本側の制度の変更に韓国が過剰反応したのは、日本の素材や部品なしには韓国の産業が成り立たないとい

「国境効果」で企業すくむ

う現実があるためだ。国際貿易論には「国境効果」についての研究がある。例えば、米国の各州とカナダの各州のデータで、州の間の貿易について考えてみよう。米国とカナダは国境を違わぬが、言語も社会にも大きな違いはない。米国の州の間での貿易と同じような規模で米国の州とカナダの州の間でも貿易が行われていると考えがちだ。ところが、現実のデータをみると、米国の州（たとえばシアトルのあるワシントン州）とカナダの州（バンクーバーがあるブリティッシュコロンビア州）の貿易は地理的にはすぐ隣の州の間の貿易なのに、米国の州の間の貿易よりも大幅に少な

くなっていることが統計的に分析できる。国境には貿易を妨げる目に見えない大きな壁がある。それが国境効果である。米国とカナダは自由貿易協定を結んでいるので関税が障壁になっているわけではない。もっと微妙な壁があるのだ。いろいろなことが考えられる。カナダの企業が米国からの輸入品にダンプینگ提訴することがあるかもしれない。カナダから米国への輸出を増やすためには米国へ投資を行っていかなければならないことも多いが、投資に対する米政府の姿勢がカナダの制度と同じであるわけではない。国境には、予想が難しい

制度変更や政策執行や慣行の違いという目に見えない壁がある。その結果、国境を越えた取引には抑制効果が働くことになる。これは日韓関係でも同じだ。そして現在進行している日韓関係の悪化は、そうした国境レベルでの不確実性をさらに拡大させる。企業としては将来のリスクをより深刻に考えざるを得ない。これが日本から韓国への投資にも抑制効果として働く。政冷経熱か政冷経冷なのかは、観光客や消費者の一時的な反応ではなく、こうした企業の認識の変化による国境効果がより強くなるのかどうかにかかっている。

(学習院大学国際社会科学部教授)